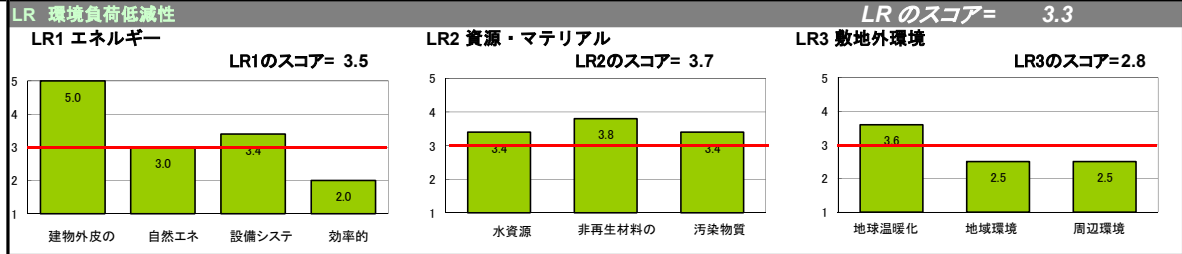
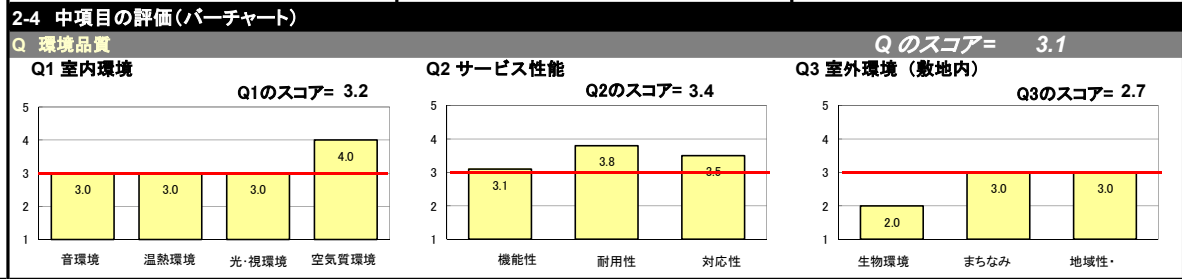
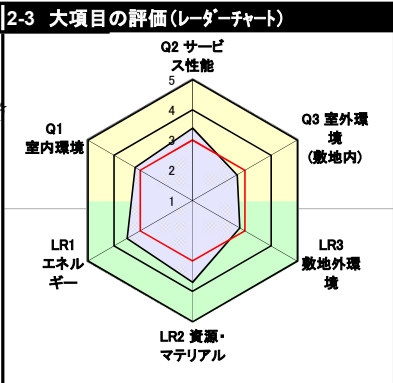
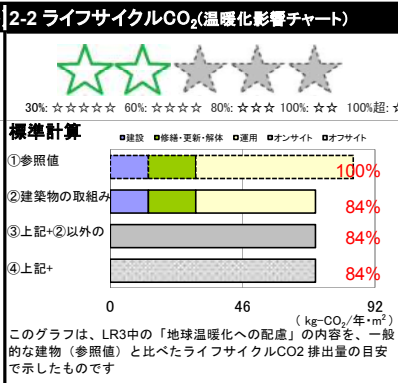
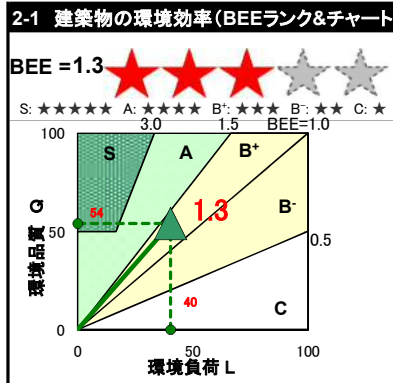


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	稲沢市新分行舎	階数	地上3階
建設地	愛知県稲沢市稲府町1番地	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、無指定	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,640 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年8月 予定	評価の実施日	2019年2月15日
敷地面積	28,950 m ²	作成者	澤田 恵
建築面積	1,165 m ²	確認日	2019年2月18日
延床面積	3,423 m ²	確認者	澤田 恵



3 重点項目

①地球温暖化への配慮	3.6	③敷地内の緑化	2.0
②資源の有効活用	3.7	④地域材の活用	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							建物全体・共用部		建物全体・共用部		居住・宿泊部分		居住・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
																				評価点
Q 建築物の環境品質																				
Q1 室内環境																				
1 音環境																				
1.1 室内騒音レベル																				
1.2 遮音																				
1 開口部遮音性能																				
2 界壁遮音性能																				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																				
1.3 吸音																				
2 温熱環境																				
2.1 室温制御																				
1 室温																				
2 外皮性能																				
3 ソーン別制御性																				
2.2 湿度制御																				
2.3 空調方式																				
3 光・視環境																				
3.1 昼光利用																				
1 昼光率																				
2 方位別開口																				
3 昼光利用設備																				
3.2 グレア対策																				
1 昼光制御																				
3.3 照度																				
3.4 照明制御																				
4 空気質環境																				
4.1 発生源対策																				
1 化学汚染物質																				
4.2 換気																				
1 換気量																				
2 自然換気性能																				
3 取り入れ外気への配慮																				
4.3 運用管理																				
1 CO ₂ の監視																				
2 喫煙の制御																				
Q2 サービス性能																				
1 機能性																				
1.1 機能性・使いやすさ																				
1 広さ・収納性																				
2 高度情報通信設備対応																				
3 バリアフリー計画																				
1.2 心理性・快適性																				
1 広さ感・景観 (天井高)																				
2 リフレッシュスペース																				
3 内装計画																				
1.3 維持管理																				
1 維持管理に配慮した設計																				
2 維持管理用機能の確保																				
2 耐用性・信頼性																				
2.1 耐震・免震・制震・制振																				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																				
2 免震・制震・制振性能																				
2.2 部品・部材の耐用年数																				
1 躯体材料の耐用年数																				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																				
6 主要設備機器の更新必要間隔																				
2.4 信頼性																				
1 空調・換気設備																				
2 給排水・衛生設備																				
3 電気設備																				
4 機械・配管支持方法																				
5 通信・情報設備																				

3 対応性・更新性					3.5	0.29					-	3.5	
3.1 空間のゆとり		②	階高4,500 PC梁を採用し、大空間を確保。 配管は梁下を通している。		4.6	0.31					-		
1 階高のゆとり					5.0	0.60						-	
2 空間の形状・自由さ					4.0	0.40						-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31						-	
3.3 設備の更新性					3.1	0.38						-	
1 空調配管の更新性					3.0	0.17						-	
2 給排水管の更新性			4.0	0.17						-			
3 電気配線の更新性			3.0	0.11						-			
4 通信配線の更新性			3.0	0.11						-			
5 設備機器の更新性			3.0	0.22						-			
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22						-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30					-	2.7	
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30					-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40					-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30					-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50					-		
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50					-		
LR 建築物の環境負荷低減性												3.3	
LR1 エネルギー					-	0.40					-	3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	0.30					-	5.0	
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20					-	3.0	
3 設備システムの高効率化					3.4	0.30					-	3.4	
4 効率的運用					2.0	0.20					-	2.0	
集合住宅以外の評価					2.0	1.00					-		
4.1 モニタリング					3.0	0.50					-		
4.2 運用管理体制					1.0	0.50					-		
集合住宅の評価					-	-					-		
4.1 モニタリング					-	-					-		
4.2 運用管理体制					-	-					-		
LR2 資源・マテリアル					-	0.30					-	3.7	
1 水資源保護					3.4	0.15					-	3.4	
1.1 節水					4.0	0.40					-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60					-		
2 1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67					-		
2 2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33					-		
2 非再生性資源の使用量削減					3.8	0.63					-	3.8	
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07					-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24					-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②			3.0	0.20					-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自			5.0	0.20					-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	0.05					-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自			5.0	0.24					-		
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.4	0.22					-	3.4	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					5.0	0.32					-		
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.68					-		
1 消火剤					2.0	0.33					-		
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.33					-		
3 冷媒					3.0	0.33					-		
LR3 敷地外環境					-	0.30					-	2.8	
1 地球温暖化への配慮		①			3.6	0.33					-	3.6	
2 地域環境への配慮					2.5	0.33					-	2.5	
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25					-		
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50					-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25					-		
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25					-		
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25					-		
3 交通負荷抑制		独自			5.0	0.25					-		
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25					-		
3 周辺環境への配慮					2.5	0.33					-	2.5	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					-	-					-		
1 騒音		独自			-	-					-		
2 振動		独自			-	-					-		
3 悪臭					-	-					-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.67					-		
1 風害の抑制					3.0	0.70					-		
2 砂塵の抑制					3.0	-					-		
3 日照障害の抑制					3.0	0.30					-		
3.3 光害の抑制					1.6	0.33					-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					1.0	0.70					-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30					-		

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:40%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲沢市の災害拠点、社会福祉の窓口となる分庁舎
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な室内の温度設定による温熱環境、室用途に応じた適切な照度設定による光視環境に配慮。
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の主目的(災害拠点)や耐用年数の高いRC造を採用。 ・長く使用されている信頼性の高い部材の採用。
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存樹木は工事の支障となる必要最低限の範囲を撤去。
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調機や照明器具は高効率設備機器を採用。
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生機器は節水型の機器を採用。 ・再生砕石等リサイクル品の採用。
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高効率設備機器の積極的な採用によるLCCO₂の排出量を削減。
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>